

株式会社日本触媒

2016年3月期 決算説明会



2016年5月12日



日本触媒

長期経営計画 「新生日本触媒2020」の 進捗状況と2015年度業績および 2016年度業績見通しについて



代表取締役社長
池田全徳

1. 長期経営計画進捗

経営計画 概要

2015年度 業績

2016年度 業績見通し

2016年度 アクションプラン

2. 個別事業動向

3. 利益還元策

用語解説

SAP： 高吸水性樹脂

AA： アクリル酸

AES： アクリル酸エステル類

EO： 酸化エチレン

1. 長期経営計画進捗

1) 長期経営計画「新生日本触媒2020」概要

2020年のあるべき姿

	売上高	経常利益	ROA	新規製品売上高*
2020年度 長期目標：	5,000億円	500億円	9.5%	470億円
2016年度 中期目標：	3,930億円	340億円	8.5%	290億円

基本指針と事業戦略の方向性

基本指針

- ◇安全・安定な生産活動
- ◇売上よりも収益性を重視

事業戦略の方向性

- ◇既存事業・コア製品の
一層の強化
- ◇新規事業の早期立ち上げ、
新製品の速やかな上市

中期および長期目標前提条件：

国産ナフサ価格 65,000円/kL、US\$=100円、EUR=130円

*新規製品売上高：上市から5年以内の製品売上高の合計

1. 長期経営計画進捗

2) 2015年度 業績

(単位：億円)	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 中期経営計画目標
売上高	3,749	3,231	3,930
営業利益	261	312	-
経常利益	299	343	340
親会社株主に帰属する当期純利益	191	260	-
ROA (総資産経常利益率)	7.3%	8.3%	8.5%
ROE (自己資本当期純利益率)	7.6%	9.6%	-
為替レート	US\$ = 109.88円 EUR = 138.68円	US\$ = 120.14円 EUR = 132.59円	US\$ = 100円 EUR = 130円
国産ナフサ価格	63,500円/kL	42,800円/kL	65,000円/kL

営業利益、経常利益、当期純利益*：全て過去最高益更新

- ・ 1年前倒して中期経営計画目標値<経常利益>を達成
- ・ 原料安によるスプレッド拡大

*親会社株主に帰属する当期純利益

1. 長期経営計画進捗

3) 2016年度 業績見通し

(単位：億円)	2015年度 実績	2016年度 計画	2016年度 中期経営計画目標
売上高	3,231	3,000	3,930
営業利益	312	220	-
経常利益	343	250	340
親会社株主に帰属する当期純利益	260	190	-
ROA (総資産経常利益率)	8.3%	6.0%	8.5%
ROE (自己資本当期純利益率)	9.6%	6.7%	-
為替レート	US\$ = 120.14円 EUR = 132.59円	US\$ = 115円 EUR = 125円	US\$ = 100円 EUR = 130円
国産ナフサ価格	42,800円/kL	38,000円/kL	65,000円/kL ←

2016年度見通し

事業環境が**激変**し、状況厳しい

- ・ AA/AES**供給過剰**、SAP**競争激化**によるスプレッド縮小
- ・ ナフサ価格大幅下落
- ・ 為替変動 対ユーロ円高

1. 長期経営計画進捗

4) 2016年度 アクションプラン

本年度予算達成へ向けて

- ・安全安定な生産活動
- ・適正なスプレッドの確保
- ・全社連携による新規製品の速やかな上市
- ・収益改善活動の継続
- ・原料等安価調達、物流コスト・経費削減

経営計画について

後半中期経営計画（2017～2020年度）を策定

- ・ステップ
2016年春： 委員会発足
秋： 計画骨子答申
2017年春： 概要発表
- ・各事業について、
 - ① 現状詳細分析および将来予測
 - ② 戦略策定
 - ③ 数値計画

企業理念、経営理念、社是は堅持する

2025年のありたい姿

「人の暮らしに新たな価値を提供する**革進***的な化学会社」

2. 個別事業動向

1) AA/SAP

AA：需給動向

需要	世界需要	約510万トン（2015年推定）	
		中期的に年率5%程度の成長を想定	
供給	2015年 増設世界合計		約80万トン/年
	2016-17年 増設計画世界合計		確定計画値なし

- ・ 歴史的に低水準の売価だが、利益は確保できている
- ・ 当面、AESの供給過剰が続く

状況と今後方針

収益性向上が急務

- 安価原料： グローバルの地産地消を指向しつつ、安価なプロピレンの調達を目指す
- 設備稼働： SAP需要を背景に稼働率・コスト競争力維持
- 生産技術： トップレベルの技術力を維持するため、新技術の開発・導入を進める



AA プラント

2. 個別事業動向

1) AA/SAP

SAP：需給動向

需要 世界需要 約230万トン（2015年推定）
中期的に年率6～7%の成長を想定

供給	2015年 増設世界合計	約30万トン/年
	2016年 増設計画世界合計	約10万トン/年
	2017年 増設計画世界合計	無し

- ・競争激化による収益性低下
- ・一部地域で供給過剰が続くものの、いずれ需給バランスは引き締まる

状況と今後方針

顧客層の充実を進める

顧客展開： 顧客別に品質や機能面での差別化強化
コスト削減： AA-SAP垂直統合の強みを生かす
姫路新プラントで1系列あたり能力アップ実証
生産性向上の最新技術を立証



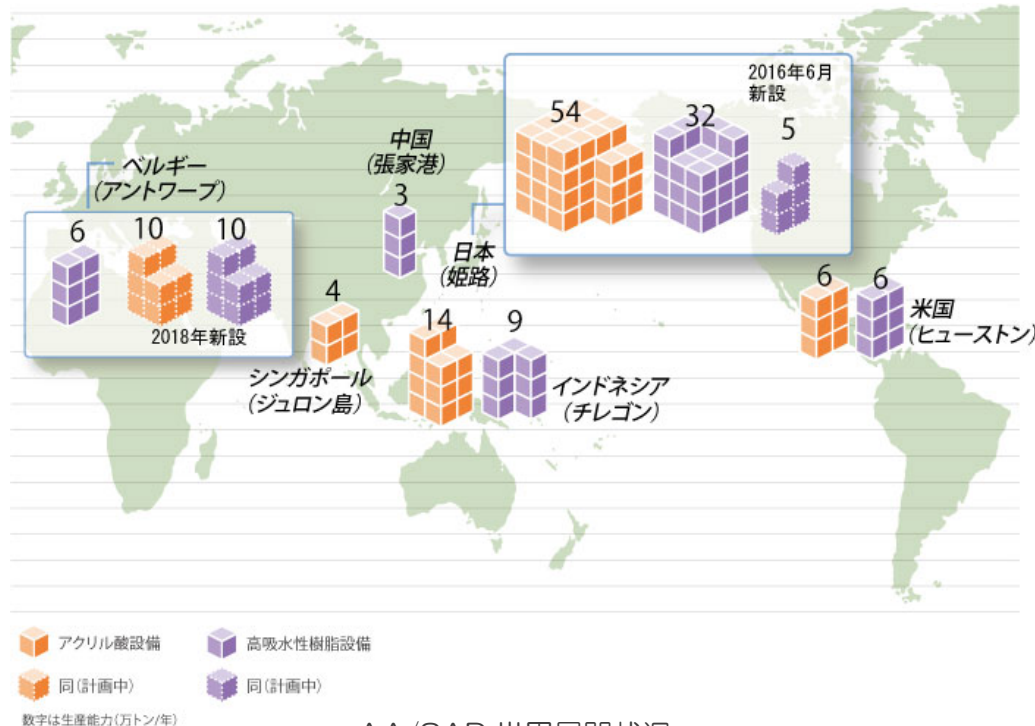
SAPプラント

2. 個別事業動向

1) AA/SAP

長期経営計画における事業基本戦略

- ◆ 高吸水性樹脂は世界トップレベルのシェア及び技術を堅持
- ◆ アクリルモノマー事業もトップを走るグローバルプレーヤーを目指す
- ◆ 持続的成長及びグローバル展開を可能とする競争力を維持・強化



AA/SAP 世界展開状況

増設計画の進捗

生産能力<計画確定分>

単位：万トン/年

	現状	計画	合計
AA	78	10 2018年新設 (ベルギー)	88
SAP	56	5+10 2016年6月 新設(姫路) 2018年新設 (ベルギー)	71

市場動向を慎重に見極め、順次増設を進める

2. 個別事業動向

2) EO

長期経営計画における事業基本戦略

- ◆ 選択と集中、成長市場への進出により事業基盤を強化し、今後ともコア事業として安定したキャッシュフローを創出する

状況と今後方針

高級アルコールエトキシレート（ソフタノール[®]）

- 界面活性剤
- ① 高い浸透力
 - ② 低粘度による扱い易さ
 - ③ 良好な生分解性
- ⇒ 家庭用液体洗剤向けにグローバルで需要拡大

※旺盛な需要拡大に應えるため、

- ① 国内（川崎）設備増強実施（2017年秋）
- ② 国内 or 海外で設備新設を検討



家庭用洗剤

2. 個別事業動向

3) 機能性化学品

長期経営計画における事業基本戦略

- ◆ ワールドワイドでトップサプライヤーとしての地位を確立
- ◆ 独自製品・技術による市場開拓と成長市場への参入
- ◆ 自社原料をベースとした世界に通じる高機能化学品群の拡充により収益面での一つの柱に育成

状況と今後方針

光学材料用アクリル樹脂（アクリビューア[®]）

耐熱性・透明性に優れ **需要・販売拡大**
能力9,000トン/年に

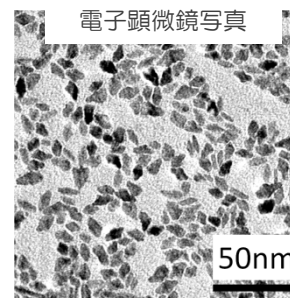
ジルコニアナノ粒子分散液（ジルコスター[®]）

有機溶媒／樹脂に対する分散能に優れ、
高濃度でも透明性を維持する屈折率調整剤
ディスプレイの高輝度化、省電力化による
バッテリーの長時間駆動に貢献

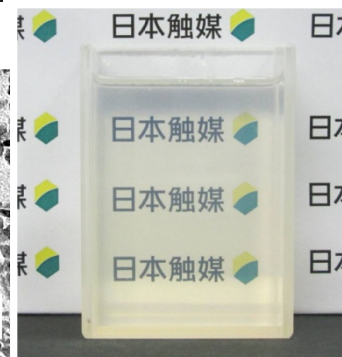
→ **製品上市、本格販売開始、需要拡大中**



アクリビューアプラント



電子顕微鏡写真



ジルコニアナノ粒子分散液

2. 個別事業動向

4) 新エネルギー・触媒

長期経営計画における事業基本戦略

- ◆ 新エネルギー関連材料分野を次世代事業の柱の一つとする
- ◆ クリーンエネルギー分野のスペシャリティ材料市場で業界標準となる技術・製品の開発と市場開拓の加速

状況と今後方針

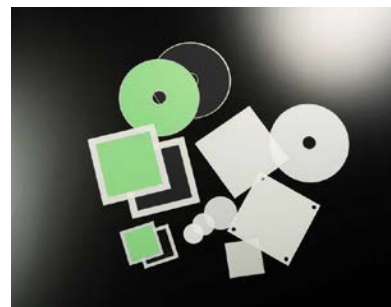
リチウムビスフルオロスルホニルイミド<LiFSI> (イオネル[®])

リチウムイオン電池用の高性能電解質、低高温特性向上、長寿命化に寄与
販売拡大中、自動車電池用評価も本格化

燃料電池用ジルコニアシート・セル

SOFC（固体酸化物形燃料電池）の心臓部材
新たな顧客要望に対応

→ 次世代品を本格投入へ



ジルコニアシート・セル



LiFSI

2. 個別事業動向

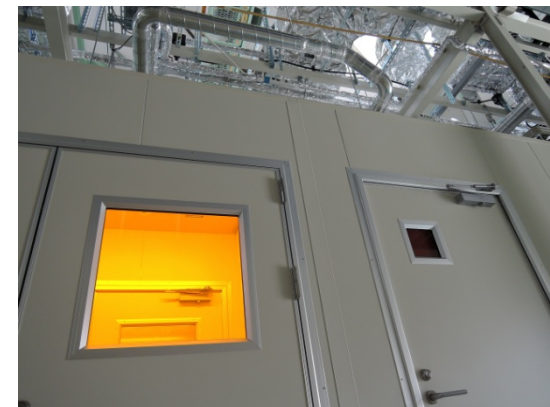
5) 新規事業・開発品

新規事業

- ◆ 新たな事業ドメインとして健康・医療分野への**参入目指す**
- ◆ **戦略投資**の活用

(株)糖鎖工学研究所と業務提携および資本提携

糖鎖修飾ソマトスタチンアナログ(G-SRIF)の共同開発
当社、ペプチド原薬合成研究施設を設置
(吹田地区研究所内に、2016年9月完工予定)
→ **ペプチド医薬事業参入へ**



ペプチド原薬合成研究施設(吹田)

他、創薬支援事業に優れた提携先の検討

開発品

イオン伝導性フィルム及び一体型亜鉛電極

安全・安価な亜鉛二次電池の新規セパレータ部材と
それを用いた一体型亜鉛電極を開発
→ **寿命を10倍以上改善**



イオン伝導性フィルム

3. 利益還元策

事業拡大や企業体質の強化等を総合的に勘案しつつ、
連結業績の動向を見通し、中長期的水準の向上を目指した配当を行う

2015年度配当

当期純利益 260億円

130円/株(当初) → 150円/株

過去最高額を更新

連続増配でかつ前年度に対し30円/株の増配

円/株	中間	期末	合計
普通配当	65	75	150
創立75周年 記念配当	-	10	

2016年度配当(予想)

当期純利益 190億円

150円/株

過去最高額と同額

前年度記念配当10円/株を普通配当に組込

円/株	中間	期末	合計
普通配当	75	75	150

(注)各年度の配当額はすべて、2015年10月1日の株式併合(5株を1株に併合)実施後の株式数をもとに表示しております。

	2008~15年度平均	2015年度	2016年度(予想)
配当性向	28.3%	23.4%	32.0%

おことわり

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 経営企画室 I R・広報部

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7605

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>